内閣文庫

後撰下 紙第二

一 あをやぎの 行恒家集より 散くとも 咲きそひぬる 木枯よりさきあらそ海さ れとの 切りひ 桜花

一 ふかの 引 ゆ 行のべ人 まで お花ぐ ふ ひ

花 ふ ふ ふ

大御所の兄の道成よりもさ法師と家つ事
あるべしと
一又あれも　道成る事乃屋敷ひろ氏人へと被げ
こそ切もつもさらるもの也
一大武乃ちうえはそれ
り道成ぐえんもしてと八武乃大輔ぐる
乃ち本事大変ともそうる絶べし
一道成　乃事ようやう上也らびまさみてれ
人をおそれとやせしとも
一ぎりうちや　乃ち本初るぐしもおそれやしも
ぎっそ出氣色ふ姫うりもやうるると源

一氏事　乃事ようおみてとうくの絶ふさらしとも
一さ北の家乃　ああわうみをれらうし事也
ふ氏　いうり出しとあるも
一世変　あうもいちりはちうふいあるも
婚ぶ変入上と源氏変の法めと法ちうも場
つのと入法殿の大変れ法もあの中変ぎら
法ひく法め変法へし源氏乃変のあるもつ
びれうんとうとやもあうらにうう
一うる場の法ちうさ法ちうのみいあ氏れ
のようしで氏ぐあさまる　ちまるあとうの八年

[illegible]

一ひ[illegible]めて　人原の平人なれ　汗みそあ
ハ[illegible]大[illegible]ら
きして[illegible]て帝北は女と[illegible]ま[illegible]事[illegible]
女二[illegible]ハ[illegible]
一ち[illegible]ん　さ[illegible]
ら[illegible]女[illegible]
うい[illegible]　大原の[illegible]
[illegible]
一我[illegible]　我[illegible]
[illegible]

[illegible]
一[illegible]　女二[illegible]
[illegible]
一[illegible]　女二の[illegible]
[illegible]の　[illegible]
一中[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一ひ[illegible]

かたちのあらんかぎりそのこゝろ
一寄物　中務の宮
の御ものをさゝぬ　なまらしとあやめの
ものも浦也
一大江の　おのゝ　まさ
ゆきへ　おもい　中さすし　ゆんさ　女房
中　女二の宮　乳母　いざとゝ　伯
知ごろ　ゆゝ
一ものいひける人　女房　ゆ
さてゝ　ゆ
宮　琴とやゝ　物みて　ゆ

うぐいすなど　ゆ
物　ゆ
一みものゝと　はる　篠　物
一かのはゝく　女二の　はみ　ゆ
一おぶうう　中　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
一ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

あのもしらさちのいんぺーひとのさしこと
一ふみぐれ　若菜　月　男にあうんそのにハうりと
松はまの若のうぐれて物をもとめ　ものもへ　源氏
物ごろもあるあ　ものも
一大ぶの法ろ〳〵　ぶの乃法ろ〳〵まーさ
ろ又みてもやうもうたんじ人　他をもてやさん
とてやをいひもの　ものも
一ふうぐに　物ものもをしたうかとさぶの
絹也
一ぎたうとまー　さぶの祈を女ぶんし
一ものうれうう　女ぶんぶとぶのどみてうう祈也

一むらの八潟　源氏のうひもるぶとうへ行るめと一
奏うあうぶもしたものひもるぶ〳〵へ行くも
一ろうり　はうぶ　ものし　きーさと八ぶとれ
きーぶぶ乃ぶへあうて　ぶへ　ものれぶんし
ぶも　通一ものうぶんと
一のもう　ものあもとそのあうまりれ　ぶど計
うぶうもしぶ　ものあとぶはもれ
一又うう八　女ぶぶ乃法ぶ　ものうまりれ法ど計
潟ものぶ　ものあもうぶのもうぶもうぶ
一ものひとぶもものぶ　ものにぶんし
ものうあぶ乃へしとハ　ものうへ　ものもきるぶう法ぶ

一左とん　いろくのとんぬもの　名謂
一うつくしき人形　高麗一云白太神　申紙云
自形醍　其人間より作らんと　上下書　名橋とん
用ちがひ　それぞれうるわしきさんやもの名
屋もとん　名べし
一ちちとき　ちとくしくいんのうどめんとも
一ぐ毎　くも　うべ戸はのあるゆへあやまち
しきさく毎　ちとも　やまとひうそまどさん
ものもとも
一そのすもち　面白河也むうもめ乃名
用ある所て動

一はさとつくり　文紙ちどりんぐとをしちべての
あしめちちべし
一ち将　さ白へさんちぐしきとちとんぬるまを
つちち所へそと歌ぬるもまるべせーぐあろ
んむちも
一すのふまちち　面白河也ちいさ者くまくうう
ふのもしゆちも
一中文　はき枝也　なまんと八中文八はあも中
文波文ちを波八所ふ　なちーの第はく
ひちうちされてトくみ者第とつ山
ちへの　望ち文也　文の古毋し　所ちさうう

[illegible]
おもうぞ[illegible]
[illegible]
[illegible]

の生を食特に時に臨み心に仏を念ず

一文の女二文を鍵文はなはだ多くしてしかるべからざる人さしとなすべきなり中納言作の通也

一外通の物乃物を附女子にて明をもたせる也多く女人文盛なる者を女とかくる也

一あり所なる女二文八後の法をもちるべし

一鳥とは色乃絵乃ちるれば色乃人とあんちる所ろ

一形可易

一を悪度中ゝく女二文八まいりてらもうひ

あらしとも也

一ちゞこ乃女二文はらんにもあらべ破れたる也

一ばくとうり さ文乃何也女二文をもちゝ乃人也

あまの人也

一うらうしして一時あやまち法人ともゝ

罪ふ用ちしてはいるゝ也

一ものゝ中はらんしゝるものを也

一扇を形ひらめ文乃ひはひ法八方面乃さ

えさまはらりをよゝ法ひうさ文の者し

一男乃方う紙 さ文のうべ乃ゝんゝちるべし

一法文ゝう出ゝし中納言曜とんゝくもおゝ

ゝ先さまうん也也

一ゝべもて 女二乃法の者ゝ者ゝちゝ乃ゝ方べ文

[illegible]
[illegible]
[illegible]
一中納言殿　女三の宮の御方へ参り給ふ
一おまへを始め奉り　引き連れて御のこりの人々
一御乳母　侍ども　[illegible]
一たゞさきのまゝ　さて八さ[illegible]
あゝ[illegible]
一うゝと　[illegible]
[illegible]
一[illegible]の森　[illegible]　引　わづらはしきの[illegible]

[illegible]
一[illegible]
こゝとさ[illegible]
[illegible]
一[illegible]の[illegible]　中納言殿の御方　あよさうまでゝ
[illegible]へ[illegible]通り八いりゝ地
一あらしやれ
一[illegible]のいと　[illegible]
いろ[illegible]
[illegible]
[illegible]

一去のとし書ハ毛はたちそうり物
をもちゐ人をまねきて　なかれしづらく
一ゝ之事　通ゝの法ゝ
此公源氏のゝやのゝ歌
一はしはしハ　源氏之地　私女こゝろもんん後付て
ゐべしゆゝうゝみ去之ゝ　おなじ事ゝ
一ゝのまゝハ茅之地よりゝ
一ゝ　源氏之ゝ　又ハ中
ゝ　後ゝ　ゝ
一みち芝ハ　ゝ春ハ　ゝ
一あゝ故ゝ　引ゝ

りゝ海みて　女二のゝ　ゝゝのゝ
ゝ海ゝ　ゝ
一ゝ　女二ゝ
一ゝ　ゝ
一人ゝ　後ゝ　引
せゝ　ゝ
一人の　天ゝ
一ゝ　ゝ

一きはつかいさ　まず　芦屋　の[illegible]
[illegible]べー
一そんぐう　禁中　[illegible]毎の時乃うり　変遷也
一わくせいひそく　女二へ大変乃わくせいあり
一ゆくすえ　女二も　我身の所懐姫を知る
もぬや
一そういとき　大武の乳母　妹内
侍の[illegible]　捷乃[illegible]
らてようくんと　ひ[illegible]
我さへとはさ　乃[illegible]
一ゆうへとと　我[illegible]

きあくじさ　ひとりをあくまるこの[illegible]
一あ[illegible]　[illegible]
一うが　それがあるべー
一たはきちの　[illegible]
[illegible]
一しる紙也
一[illegible]
きちひとり　乃
[illegible]べー
一[illegible]
[illegible]

一大文字の大　乃法懐姫と紫式部の御事と思
繁して四方も奏しらるとも
一ものぐるくの　月乃さうもも　もてはやされたるすとし
一えりはれあゆく　故なる引二歌
一吹もく　女二宮
一つるんもれ　をうらうられとハ　浮級也
一うれにびめ　そめ川絞也
一おとろあまぐつ　ひもぐつハ沈くといふ也
一さいかもを　女二宮ぐちぶらんとも
一とのゐ引　あさちよひ　藤原　ものちくあまれど
あまりてあるとう人の為つき

一みくれ家扇　多
一人まこと　伝記よりもとつ
一みくもも　伝記よりもとつ
一んくゐ　ものくもはなくうを時　ものくを
きてどもも
一雲井　きてあひ乃がくちん　人も見ぬハさ文ふ
知うとも　大文の字也　三巻乃末也　故文
の字と書うちんハ　ト初也
一はれもの表　さ文れつ　つまもくしてあり　まれ
也天子の女二とまつくせんもうもひをはあを
一ものくもう　文一のさ屋　ものくもう　ものくもう

一扨来よりかたらふ人もなくてかなしみ
をいとおもふらんとも　反上人ありともなりもちるべし
伊勢物語源氏より唐の故事引用のこと
一たゞ不可説なりさて　ふらぬ程のくさ衣の物
しまれもたらさるさらんとも
一はゆうり　もつ衣狭衣の物さもたれ行めひもちんと
一そや　中納言ゞ志ゞとありひて乳母わざとさ
衣りハ不知といつもこゝろをめぐらしてひるゝ
一ちるれての　引歌　ちるよもちぶ
一きにかんめて　法延寺殿ハんと思ふ会うて今
まで法名とも

一姫君さへ　法門乃はんゆ中今一度法門へ見てもしん
しゆ名ちぐはあるて人ゝいちどまいりてもとも
一ちゞつまりて　さいの法ゆ法懐姫とさうゝ
早いうゝのさくハせもし成りのをとも
一きに別れほどもちるぬ　ありけるくちびきへ
らもちるゝ所ゞりに加とも
一ことのほとゝ　さ衣をつゝひ引きあとゆゝ
ぎやも
一まつて内ちと　ありてひきゆゝもちさにちゞき
ゝ衣ちあぎに思ふ思ひんと思ひとも　その法ど
と付くさこゆゝ　中納言法ゞ法ゞ

まるまるかんなめのせうとも
一とのれはしらく　引手数
一ものしさは　大きくしちに奥してちらだとも
一ちちにちりせめ　信元よりつり　叱　表厚　留　陰死
一あまのうらびと　我うち大きちなく如なりしり
ひつきちきはせりまてもずも姫えのはんちるべし
ひとりかちんきかりはさえへちびきづらくれ
はしめきも
一まづうちちらでは　まんうち実あもちもしえゆめり
おとも　とばはづ戎月じはちる狩
一まひひちりどり　尼よ如はうんりを奏して

教聞ドせとも
一うちちるはさちまさとも
一きちつく　はづれの尼髪のさうちもしうも
ひにうちちりてもはいのちを時のまもりけ
らば先きんとも
一あがちちるべし　源氏えの故也　ちちちるひ
ちばも源氏えうちちへし
一きうちその月　法か納云　枕草子　源氏ゆもり行狩
一九月　ひうもいもうゆけりもじ名乃夜れ川月さもも
ちどうちも
一我汁　我汁ばはうつあ　然ふも初ちひはせ

とさ衣ん〻し

一ゑ藤の所あま　尼へ通衣のつも

一ゑぶく　信りつぐ〻とゆるゝとゝう

一ゑ〻ゝ或ゝ云　さ衣ゝれ有

一ゝせこのゝ松　古物ゝ〻ゝる人し

一あゆまゝゝや。ひろぐだうや。ちぐりて稲ゝれとゝも

ゝろびあひゝ〻ゝ　源氏ゝ語ゝ

一まゝぐりし　源氏ゝ

南のゝ〻ゝ　ゝ〻ゝ

んゝも天ゝの法ゝ

一ゝまゝ物ぐし　源氏物ゝの巻をゝ

ゝれもゝ　ひゝ　ゝは

一ひまてゝ　清ゝ

燈ハ冨士ゝ山也ゝ

一ゝ山ゝ　むゝぐ

一ゝんわゝ所　狭衣ゝ

一ゝむ平等大會　法花經ゝ

一ゝゝ　ゝ

中ゝ

一ゝ物ゝ

一ゝ言ゝ　源氏ゝ

一ゝてゝ　さ衣ゝ

てちやまさせたまへるん　ゆゝしきりとゆゝしきりあ
ゝそのさまにて人にはたらんとのたまふ　さ夜の中の
ぼうさんだ　さ夜の中の河
一つとあるまじき　ことまてハ河ちろべし　源氏の
北山自義ハあるまじきと思ひ　秘密なりと思ひ
ハまりてとらんゆへあるまじ　歳ゆへ　源氏の
言べしと母の方の方の
一わらうも　母なし
一をゝへ　秘密なり　源氏の
一ゆゝしきりあるまじ　さ夜
一ゆゝしきりあるまじ　さ夜

一母のめのとゝいとくせ　源氏のもとにたのめて久しき
とのまゝの西の方ちろべし
一ぶりとをゝくうゝ　をさなきたへ　光母の方の
河也　まゝくくさ夜也　の方ゝすまてどさらとて
をゝへ　さでハとて
一末の世と　源をもてちぐあるまゝ
ハ母のこゝろ　源氏の代ゝき夜よめり
一そよちくゝり　さ夜　小藻ハさ夜の方ゝ
あてくまゝの西の方ゝ　をくまゝ
一みゝ　歌　源波浮乃
てもの世ゝ

一ちゝうしのめも　もとゝしづくべき河ゝれだゝことに　まゝ
源氏ゑゆへいの面一さきと　ゆつゝさ河し
一ことゝうもやつひちなづゝ　めぶのとゝうさる物ゝ
とそいづ　ぢ流ぢゝうとそまつゝせ行ゝりあゝ
つもれ　さゑ物ゝりめすまゝちるとゝうへど
我もハさゑも
一えさがゝ　まゝれどちゝ事あるまゝ
ちゝ物ゝも
一うちそむん　源ゝゝゝ
一引やり　さゑ物あゝ　ゝの世ちとあるゆゝ
一ゝゝや　源氏ゑ流ゝ　ゝとゝゝとも

一ものの　ぢくだ山塚ゝ　ちゝ山ちゝ　れゝ思ひ入
ゝりハちゝさとゝハ　された大度乃ぢんるゝ
撑ゝまゝとも
一たゝめゝ　ゝん　ゝん　ハ行せんゝける乃ゝ
ゝんゝゝ人ハみゝゝれ
一まいのゝゝゝ　ゝ人乃　大武乃乳母妹ちゝに
ゝゝとへゝとも
一正月ゝ　上流ゝて　ゝ乃ゝ　ゝ
ゝめゝ　面白事ちゝ　ゝとゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ

一ゑぶの　能登井　えぶの腹あて　袖せあしまだ長
文乃さ海あらんをとと思ふ也
一ふくんと　弓ふうえんと　ちるべし
をとせよ白をさろべし
一きいろ乃ほれあく　そざんをとろろざとろろ
ゆはめるくゆ也
一いをてんと　能登井　恵の紅也　我をいけて
みんと思ふくそざんをとろろ　我ゆろ　行へとも
一ふろ水　あふざ　けるゆ一巻よあり
一ろくをあり弓　狩衣　くれあり
一あさりを所　狩衣弓也　源氏乃ざらんへ八四段

一ろくをるもの法歌の　釋　源氏の文ゆへ行るゆ也
りひろ行へりし也
一ゆとをちのやう　うせふ　のち思ふ八ゑれ行
えぶりし也　刑乃やう　ゆうりしがは扇清
清ゆをゆのごくるゆ也
一四段に　唐泊ふく　女乃ろ扇紙あて　行と
乃行也
一波門ゑ　狩衣　くれゆ
一四の文ゑ　女二の巻　四日の法　狩衣也
一ゑの狩　ゑの狩　女ゑ文ゑ　ゑ也　奥　て白　黄

一ある人 引世中ふあらまし人を思ふ人のたぐ
ありくこと如にけるに 又女こと
一あらも面に
一大将乃こと さ衣へと思ひたるべし
一むかしの引手て動ゆるもれんるべし
一神の中よりやう奇事動 私動古今にあるべし神の
中よりやへ今名ん我ふたまふ みのなれんちまろ
一ふるかくて 法出家、ち中くに法ふるなる
ことさ衣へ中 狩
一ふるこう 女二ふ衣のりくに八郎多井ふ
のふるこ 延ひあ

一ものの ふ苦 孫ちをふ母ふとも法ふ
八郎ものをとへ
一ものひふふ ふふ
一中ふ ふひふ苦ふ ふ
いとん苦ふ中ふ ふの法紙を天ふ又法ふ
しふふ
一大やふ ふ
ものふ ふ
ふ苦ふ ふ句 ふ
ふ苦ふ ふ
ふ法出ふ ふ面馴ふ

一法院　女二ともあり
一さはりひ　さ家へ女二ともさ家よりあづけ
一ものを　ものをくれ源氏ものをさ家
法ゐんせも
一ものいんとちる　天ゐんせ法院も　独行ひとりゆへあ
らんとものがめもたる　ものくへ法遺言ゆい
たをものをみなあしづとも
一うもと　一巻ゐもある間もくもくもくもの
らものくんも
一法院のおり
一さしたもれ　女二法へ遣り又女二ともも

一独りゐよ独り
一長文のみも　ものがめ法ゐ　たゐ長ゐもはづの法を
ものがめりそ　ものがめりそ長文乃法ゐ中へあもれ
たはしらも
一法ゐ中へ
一ものき法の留まとゐ法あるあと立井よ
一林　しはさ家もそくものうへ源氏文きんひろせ
ものひり形と帝法へとものがめりそ法へとものがめ
ものしりとものとりくゐ法とて　ものて大納文乃
長して独長文引法へとて陽出ものも
一長のがへ法　独長帝も日法ものる法と知へ

のうさいの稲にあらしのきとやかぜ
一ら風しきやなびやとんぶんまりけまて
一姫すとうりぶにう山へあぶくそと京をうべし
乳母たち　その山林廉やと京をうめ〜ぶ〜幾
人　とんまうそ〜とこ
一衣ぶへやせんさうんぶうらわうきぬ野ぶ〜きの
原義ら乳ぶうやさひ遵　催馬楽
一ぶうう〜ぶ〜て　上畧ちるへし又紙ふもとぶ
してのんぬ
一ぶれみのく　古紙
一三秋而　宮漏正長空階雨滴

萬里而郷愁何在葵葉窓深愁賦張讀朗詠
洛葉題下也
一欲宮　洛ともち一和八一条院ぶれさぬ
（原ぶ〜ぶ〜八）脇ぶうもと又ぶうもさぬ〜ぶ一条
地姫ぶ
一文八法長　源氏ぶ也　神代ぶうの事八坂川
原　長中に法ぬせ〜事ぶ〜ぶ
一ぶう中〜　さ衣八法ぶうう
一ぶ〜ぶ也　川奇事動
一ぶ〜国八中将　故事歩動
一大前　ぬ系〜て二河へト〜欲

一たとえば 毋陀天の御ぐしをあげ給ひ給ふ事に日
月をてらんとおもひ給ひ毋陀天を御ぐしにて
さいをてらんとうらなひ給ふ事をおもひとり
しらんがごとし

一尼子 あるさうし聞くに尼子の門をくぐるあ
らんと仰せられ給ふ毋陀天を尼法師にて生へ給ふ
なれども神ぐらりえあひ給ひて今うらもあひ
ぐらりとも

一林山の寺 もろへぐそはまてゆへゆへをくく
ひとしもあべでおもて無いりめんをのまり
一大津の宮子 式が歌

一ちとせのくらゐ

一我恋の寺 我恋はいかにもあらじとおもふ
とれわれをなぐさめとおもひ給ふ
一歌 えたまいしの日 女房詞乃花也
二条の門をぐて 法花一仏の門にうちるべし
二ハ数度の縁覚と云ふ三乗ハ善薬を加也
一月ぐてしに 川 恋せしと云ふ河乃 せしに
そき神おうあるとも ぬれぬれ ぬりとちるくし
ハ年寿のんさ神をしすものんちゃんとも
ふやや 狭衣むし しらもぐそのあ百かか

あしかしこ也

一ゝ法師ぜよ　ゆ世うもあるべしとも又遍ゆ

ゆるゝべし　ゆあるべき法ゆてやのてになるれば

一大将の宮井殿おゝ　ゆ字入牛可給とゝ

一ゝ殿ゆ　引いゝくまゝ世法だいとゝんゝ

とゝ世ゝゝ山ゆゝ　ゆゝ法ゆゝゝゝれ

一度ゆてゝ　源氏乃ゝゝ法ゆゝゝゝゝゝゝゝ

一ゝゝゝり　秘法へさゝ衣のまゝゝ行てゝ也

一ゝゝゝらへ　楊貴妃と給めり　源氏ゝゝを貴妃ゝ

秘法を蓬莱ゝゝ　秘法又一条とゝけてゝゝゝ

一ゝゝゝゝゝゝゝ

無量千万億劫 乃至聞一句 乃至一念 皆已成佛道

一切衆生 皆有佛性 如来智慧 自然在心

一切衆生 皆有如来 智慧相好 但以妄想執著 不能证知